

国立市

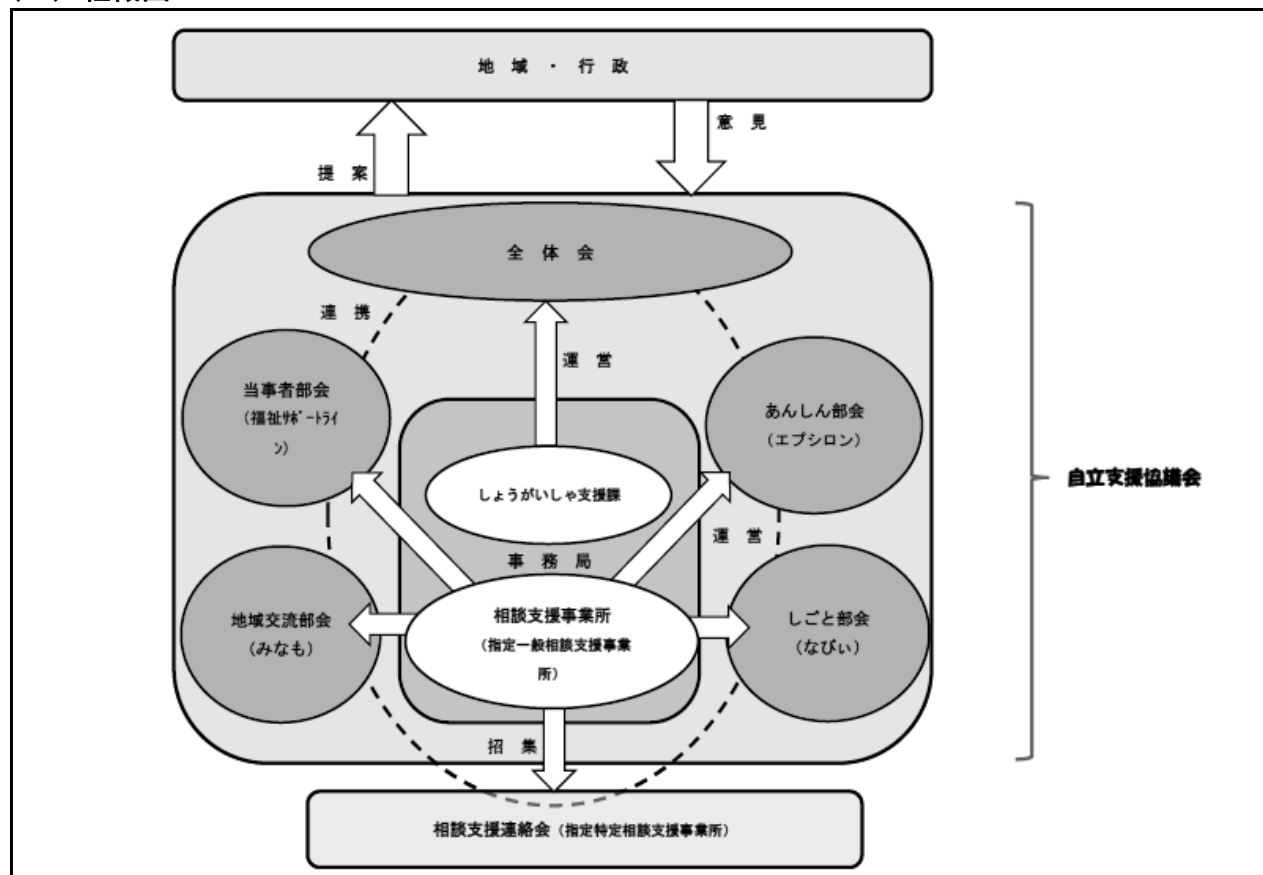
1 地域自立支援協議会の基本事項

(1) 名称 国立市自立支援協議会

(2) ホームページURL

<https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/soshiki/Dept03/Div02/Sec02/gyomu/0102/jiritsushien/1477043967199.html>

(3) 組織図



(4) 会議実施方法等

ア 開催方法

全体会	ハイブリッド形式（集合とリモートの双方に対応した方法）	専門部会等	ハイブリッド形式（集合とリモートの双方に対応した方法）
-----	-----------------------------	-------	-----------------------------

イ 開催時間

全体会	平日夜間（業務時間外に係る時間帯）	専門部会等	平日日中（業務時間内）
-----	-------------------	-------	-------------

2 地域自立支援協議会の委員

(1) 委員名簿

No.	役職	氏名	所属	種別	備考	経験年数
1	会長	堀江 まゆみ	学校法人白梅学園 白梅学園大学	学識経験者		5
2		新井 ゆみ	国立市医師会	医療関係者		10
3		川畑 淳子	国立市教育委員会	教育関係機関		2
4		松田 周平	国立市社会福祉協議会	社会福祉協議会		5
5		千田 美穂子	当事者・家族	障害当事者（ピアサポーター含む）		10
6		芳賀 弘幸	当事者・家族	障害当事者（ピアサポーター含む）		5
7		北本 雅子	当事者・家族	障害当事者（ピアサポーター含む）		2

(2) 委員構成

種 別 \ 全体会・部会名	全体会	あんしん 部会	しごと 部会	地域交流 部会	当事者部会
学識経験者	1	0	0	0	0
医療関係者	1	1	0	0	0
保健所	0	1	0	0	0
教育関係機関	1	0	1	0	0
雇用関係機関	0	0	2	0	0
企業	0	0	2	0	0
障害当事者（ピアサポーター含む）	3	0	2	1	7
家族・関係団体	0	3	0	0	0
身体・知的障害者相談員	0	0	0	0	0
相談支援事業者	0	2	2	4	2
障害福祉サービス等事業者	0	0	5	4	0
社会福祉協議会	1	1	0	1	0
法曹関係者	0	0	0	0	0
民生委員・児童委員	0	1	0	0	0
地域住民	0	1	0	0	0
行政職員（区市町村）	0	1	1	1	0
行政職員（都）	0	1	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
計	7	12	15	11	9

3 地域自立支援協議会の活動状況

(1) 地域自立支援協議会での協議事項（複数回答）

⑫ 地域自立支援協議会の運営に関すること。

自立支援協議会の在り方について。次年度以降新体制にて進めていく方向となった。

⑪ 障害福祉計画等に関すること。

次期計画の策定に向けて、意見聴取を行った。

⑨ 障害者差別解消法や条例、権利擁護に関すること。

庁内職員研修の継続に向けた検討。

(2) 地域自立支援協議会としての役割（複数回答）

② 情報共有・情報発信

自立支援協議会の今後の方向性について、部会の枠を超えて協議することができた。

(3) 地域自立支援協議会として把握している地域課題

ア 個別の困難事例の把握・検討（複数回答）

② 専門部会やその他の各種連絡会等から検討が必要なものを取り上げている。

地域のしょうがいしゃに対する理解不足や合理的配慮を要する案件に関するもの

イ 地域課題に対して取り組んだ（取り組んでいる）内容又は取り組めなかった理由等（複数回答）

① 相談支援の質及び量

個別の相談事例から共通する課題を抽出し、それを地域課題として認識し、地域で解決できる仕組みづくりの検討。

② 社会資源の開発及び改善

地域生活支援拠点の整備について。

ウ 地域課題の中で、広域又は東京都全域で対応するほうが良いと考える課題

⑤ 福祉人材（マンパワー）の確保

福祉人材不足の解消について。

⑥ 緊急・災害等対応

災害時は避難区域が行政区を大きく超える場合も想定されるため、広域又は東京都全域における取組が必要と考える。

4 地域自立支援協議会の活性化

（１）地域自立支援協議会活動の評価

ア 全体会・専門部会等の評価

全体会	ある程度活性化した。	専門部会等	ある程度活性化した。
-----	------------	-------	------------

イ 活性化したと評価する理由

本年度は1年間かけて今後の自立支援協議会の在り方検討のための協議をしてきたため、ある程度は活性化したといえる。

ウ 活性化するための今後の取組

全体会にて、今後の在り方について協議し、方向性を出せたことで次年度以降は部会及び全体会共に活性化することが見込まれる。